

---

essais こころみ 2021年3月

---

2021年3月1日(月) 晴れ

事務所を引っ越して一ヶ月、大きな窓の外は隣の高いビル。空模様がわかりにくいのは少し残念。でも来るときは晴れていたし、予報でも夕方までは気温もあかり春の陽気とか。

— 〈頭を空にする〉つもりで —

去年の音声「ひと言ひとり言」、「自業のすすめ」音声版は「コロナ」がなければ陽の目をみなかった。30周年にむけた「プロジェクト」のアイテムにはならなかったと思う。

「コロナ」は世界に「新しい常態」を迫った。個人的には新しい試みにつながった。ちょうど世の中でも「音声配信」が広がり、たくさんのアプリが生れている。

去年「ひと言ひとり言」を始めた時、「会って話を聞いているような気になる」、「ずっと続けてください」という声を寄せていただいた。だから年が明けたら通常のものにしようと考えていた。

事務所の引越しがあり、タイミングが今になったが、3月の始まり、週の始りの今日をブログに、〈書く〉と〈話す〉を同時に、または〈話す〉をプラスして、〈頭を空にする〉つもりで語っていくつもり。

頭を空にする。2016年にまとめた『自業のすすめ』の結びに「自業の終わり方」として書いたことである。10年前の2011年に、10年後の2021年をその実践の初年と考えていた。

曲がりなりにも備えてきた知的蓄積、それらは使っても減ることはないが、自分の中を空にするつもりで、アウトプットに努める。行動様式においても、そうあろうと思う。ごくごく自然に、無理はせず。

2021年3月5日(金) 啓蟄 雨⇄曇り

朝一番は雨が降っていた。出る時にはやんで、北浜駅に着いて地上に出ると青空が出ていた。予報では雨の一日、さてこのまま晴れるのか。今日は啓蟄、地中の虫も動き出す頃。

— 俯瞰と知的装備 —

5年ほど前から「勉強」について書いた本が目につきます。ちょうどその頃、個人的に気になっていたことが「勉強」でした。

仕事でいろいろな人の相談を受け、話をすることになりますが、ふと湧いた懸念が、“ひょっとして、自分では勉強していない?”。

セミナーを受けて、助言を受けて、それで終わっている。受けた後、おさらいしたり、さらに自分で調べたり、あるいは本を読んだり、その他諸々、次のアプローチにつなげていない。

そういったアプローチの習慣がなくて、その大事さを実感できてないの  
かもしれません。〈自分ならではの〉の仕事と人生を模索する人は、自分  
ならではの「学び」がなければそうなりませんから、実に大事。

人生の大先輩からいただいた言葉をあらためて、『究めれば そこが  
天職』。

道のりは長い。周期的に〈混沌〉もてきます、自分の中に。そういう時は  
〈われに返る〉のがお勧め。ちょっと立ちどまり、過去から現在をふり  
返ってみます。すると、自ずと未来を展望することになります。

しだいに気をとりなおします。そこで考えましょう、〈持続可能な〉長い  
道になるよう、知的装備のための自分なりの工夫、習慣を。そして実  
践、あなたの自身の未来のために。

2021年3月7日(日) 晴→曇り

誘われて昨日大阪城公園を散歩した。お目当ては梅林。満開の時期  
がすぎたので、人は少なく、ゆったり歩けた。ついでに桃園にも寄った。  
まだ早い?と思いきや、もう咲き始めていた。これから華やぐ春。

－ 読書、その後光 －

最近のニュースで、ママ友の言いなりになり家族崩壊をまねいた事  
件。事件の内容に唾然としますが、なぜ言いなりになってしまったのか、  
そこに関心が向きます。

3年ほど前の自業相談で先方の一言に絶句したことがあります。「自  
分のことなんて、結婚以降、考えたことがありません」。よい妻・母・嫁で  
あるようと努めてきただけです、というのです。

その3つの立場を絶つ決心をして、20年ほどのブランクを空け、若い  
頃には考えていた自分自身の未来を、20年ぶりに自問することになり、  
「何をどう考えていいか、わからないんです…」。

そうなるものか…と、自分の認識を新たにしましたが、拠り所が常  
に自分以外のところにあるとすれば、自身の精神の支柱は備わりにくい  
く、戸惑うばかりということかもしれません。

人それぞれ生活環境が異なりますが、ある程度の直観は常に働くよう  
にしておきたいものです。SNSやネットの情報に浸る時間はほどほど  
に、やはり読書がその助けになるのは間違いありません。

ただしハウ・ツー本は20代までと言われますね。とはいえ、10代はあま  
りハウ・ツー本は読まない、読む必要がないものですが、ともあれ、30  
代からは読むのに少々大変でも考えさせられる本を選んで読む。

そうして自分の考えを積み重ね、精神を逞しくしていく。これまで大切  
なことでしたが、SNSやネット情報に翻弄されやすいこれからはなおさ  
ら。逞しい精神が、いろんな意味でのリスク」を回避することになりま

今の歳になって悟る、読書、その後光、深淵なり。

2021年3月13日(土) 雨⇄雨

昨日夕方からの雨が今朝まで続いた。お昼にかけて晴れるのかと思いきや、薄日、曇り、小雨が順繰り、なんとも落ち着きのない天気。晴れは明日になってからのよう。

ー 事前、事後、そして日々ー

「無意味に見える98%の価値解明」。6年前の新聞書評に載った『ジャンクDNA』の紹介見出しです。

些細なことほど仕事の成果を左右している!と考えている面があって、この見出しに目がとまったのだらうと思います。

遺伝子の研究が進み、目にみえる働きをしている2%以外の「がらくた」が、実は目にみえる働きを支える大事な仕事をしていることがわかったそう。おしなべてこの世を象徴しているようではありませんか。

「大きな仕事も小さな仕事も、小さなシゴトの積み重ね」。個別コンサルでもセミナーでも、よく話していることですが、一定の仕事歴をもつ方は実感されるところでしょ。

世に出てまだ間もない方は仕事の本番・本仕事に気がいき、事前と事後の作業にあまり頭がいていないことが少なくありません。

仕事の本番は事前準備でその成果がほぼ決まる、それは間違いない。常識的にもそうだし、個人的な経験からも、そう言えます。

そして本仕事が終わった後の作業。このプロセスが「学び」の蓄積へと誘います。つい先日も新進の〈自業家〉にその大事さを強調したばかり

個人的には事前・事後を見渡せる独自のフォーマットをつくってあります。その作りがどんなものか説明はしましたが、自分のやり方を考えるよう勧めました。それが自分のスタイルにつながります。

事前、事後、そして、日々のちょっとしたひと作業。たとえば、いいタイミングで進捗を仕事仲間連絡するなど。作業自体は単純なことですが、仕事全体の段取りがうまくいく、たがいに気持ちよく仕事を進められる、といったことにつながる。

そんなこんな、小さなシゴトの積み重ねがよい状況、結果をつくっていく、という感覚がそなわれれば、つよい。

2021年3月19日(金) 晴れ

今朝もNHKFMかけたが、いつもの番組とは違う。9時になると、うん? 選抜甲子園の開会式の放送が始まった。アナウンサーの第一声は、「春の甲子園に球児たちが帰ってきました!」。ああ…、春。

ー 「次は創造的な日常づくりですね」ー

佐藤弘樹さんが生前、朝の担当番組でよく引用されていた『神は細部に宿る』。これは、『真に貴重な情報は、〈流れお変化〉にある』や『大きな仕事も小さな仕事も小さな仕事のつみかさね』み通じるものでしょ

何気ないこと、些細なことが、結果の良し悪しの鍵を握っている、それを意識するしないに関わらず。意識できるようになれば、事がよりうまく運ぶだろうし、もし思うように運ばなくても、“やることはやった”という気持ちから、あまり落胆することなく、結果を許容できるものです。

一見、些細なこと、それが大事ということは折にふれ、例をあげながら話してます。聞きあきた人もいると思いますが、だからといって実践できるかという、それは別問題。たぶカラダで憶えていくものですから、何度か“あっ、しまった”という経験があつて、備わっていきそうです。

「教えていただいていたことなのに…」。近況を知らせてくれた方がちょっと悔しがっていました。仕事の新しいオファーに十分対応できず、その案件はのがしてしまったそう。総合的に考えてオファーがくるかもしれないことは想定できたはずなのに、日常に追われて、やりすごしてい

それでも、そう気づいているのですから、今後に生きるはず。これまでも試行錯誤を重ね、「少しは自分を褒めてあげたい」という段階にきたということですから、さらにこれからが貴重な学習期。

「次は創造的な日常の習慣をどうつくっていくかですね」と励ますと、ああ、そこだ!という表情をされたのが印象的。自分自身のしっかりとした認識、芽生え。その感覚はその人のもの、ぬすまれませんね。

2021年3月21日(日) 雨

『春眠暁を覚えず』、よく眠ったなあと目覚めに思った。と同時に、東北の人たちは眠れなかったろうなあ、まだ10前の余震だなんて…。昨日は春分、大阪でも桜が咲き始めた。去年は軒並中止になったお花見。今年は密を避けて小規模ながら実施されると思う。でも気持ちがついていなかいかも、東北では。

— 「気象」のせいにして—

気持ちがついていかない、といえば、先日会った知人が「このところ気力が全然わいてこなくて、本もまったく読めない」。まめに本屋さんへ通い、読書も日課だというのに、それはまたどうして。

一つ言えるのは、気象。よく紹介している「時間治療学」や「健康気象学」、本の『月からのシグナル』が教えるように、太陽や月の動きが人間の心身に与える影響は小さくありません。

2月初旬から3月にかけては、まだ寒いのに陽ざしは明るくなり、季節の変わり目でお天気も変りやすい。受験や異動など、4月を前に何かと変化の多い。自分事でなくても、社会全体がざわついて、なんとなく落ち着きない雰囲気。

誰でも何かしら課題を抱えているものですから、どうしてもセンシティブになりやすい。それうち4月になると、新年度が始まり、目の前の仕事や、春本番のいろいろな行事に追われて、いつかそちらに気がとられ、ある意味鈍感になっていく。

少々鈍感じゃないと、世渡りはむずかしいですから、それはよしとして、でも、ずっと鈍感では、想像力も創造力もついてきませんね。一年に2度ぐらいはセンシティブな時があっただけいいのではないのでしょうか。

春から夏の変わり目よりも、やはり冬から春の変わり目。そして、アジア人は夏に郷愁をおぼえるといいますが、井上陽水の『少年時代』が浮かぶ、8月中旬から9月にかけての間。

センシティブにならなくても、なるような時間をもつのも一考です。「おひとりさま」で〈われにかえる〉時間をもつ。本当に大事なこと、忘れていた何かを想いだすのも、よくあることです。

普段でも、なんとなく気が滅入ったら、気象のせいにして、やりすごすのも一つの知恵、方便。ともあれ最後に頼るのは自分自身ですから、個々人の事情に応じて、うまく自分を手懐けていきたいものです。

2021年3月26日(金) 曇⇒晴

朝一番は雲空だった。これから晴れてくるよう。大阪市内の桜はほぼ満開。日曜はまた雨の予報だから、見頃は今日明日のよう。そういえば「通り抜け」はどうなっているかとサイトをチェックしてみたら、事前申込制になっていて、日程は4月8日から14日。

－ イメージレス、「体は個性」－

すこし前にも書きましたが、些細なことが仕事の成否をわけていると、最近とみに感じています。成否をわけるほどですから、結果的には重要なこと、となるわけですが、場面を想像する、もその一つです。

初めての相手先に提案書を郵送するという方がいて、内容物の構成を聞いた上で、「いつ届くように出すんです？ 紙はどんなもの？」と尋ねるました。ご本人はキョトン、「えっ？ そんなことまで…？」。

自分の送った郵便物を受け取り人はどう感じるか、その後どう取り扱われて、リアクションがあるか無いか、そういったことを想像・予想して、送る内容物を構成し、ボリュームや外観なども考えたいものです。

ちなみに、『受取人に心理的影響を与えるのは、文書の文言だけでなく、その外的要素＝手紙の外観と形式、紙質、さらに、封筒と宛名の書き方さえも含む』（セルゲイ・チャコティン）。

ただ、「想像」いうことも、知ってみると、なかなか奥深いテーマです。『私の日本語雑記』（中井久夫）に、立方体を思い浮かべる調査で、「イメージレス」の人が10%いると紹介されていました。

普通の透視図を描く人が80%、そこに影や色を加える人が10%、全く図形が思い浮かばず、数字で面や積を考える人が10%だったとか。10%の人がイメージレスというのは、けっこう多い。

4年前に読んで、このことを知ったとき、ああ、気を付けないといけないなあと感じたものです。個人的によく図にして物事を説明するタイプで、一般的にもその方が伝わりやすいと言われるので、何の疑問ももっていませんでした。

イメージレスの人は、例えば先の郵便物を送った跡の先方での状況や場面を想像するということはできないんでしょうか、そういうことはないでしょうね、いや、ちょっと、わかりませんね、他者の頭の中や感覚は知り得ませんから。

とにかくある事を誰でもが同じように想像している・できている、ということはない、と了解しておく必要がある。そう肝に銘じました。

今週月曜の朝、NHKFMを流し聴いていて、パツと耳にとまった言葉、「体も個性」。舞踏家の方のひと言ですが、たしかに！

(昼下がり散歩) 息抜きがてら、、桜見もかねて大川ぞいまで散歩。大阪市内は今日明日が見頃。石のベンチに腰かけ、空、川、桜を眺めながら、常時携帯の縦書き小ノートに、あれやこれや直近のことを書く。こういう時間が至福の時。



2021年3月27日(土)

2021年桜と十五夜月



